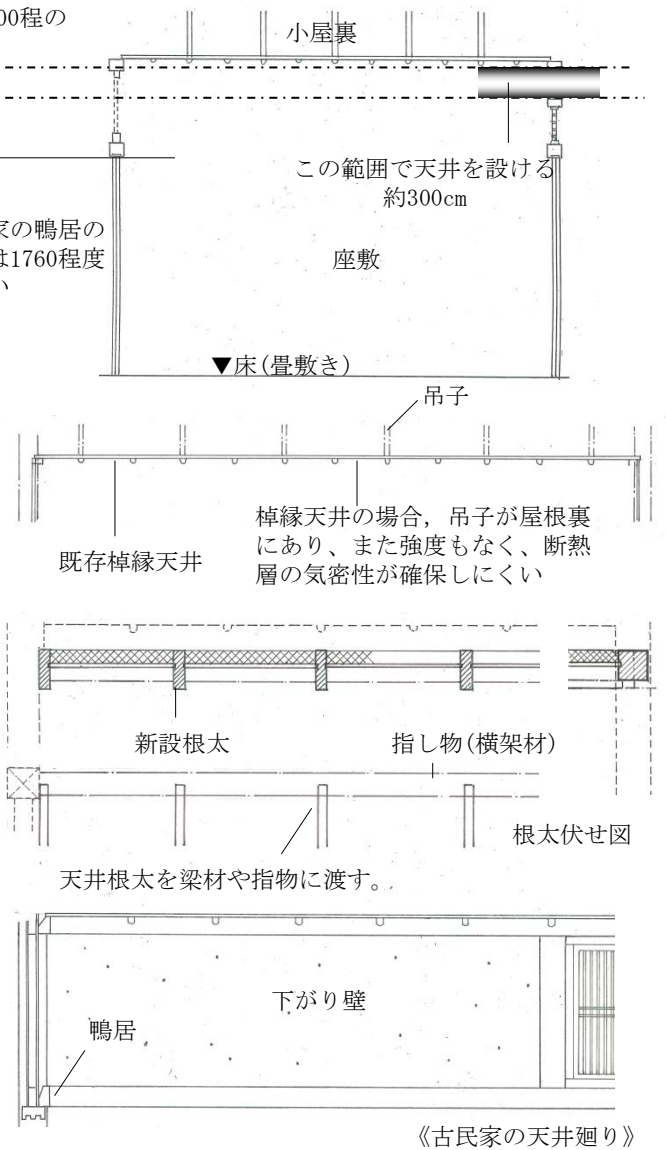
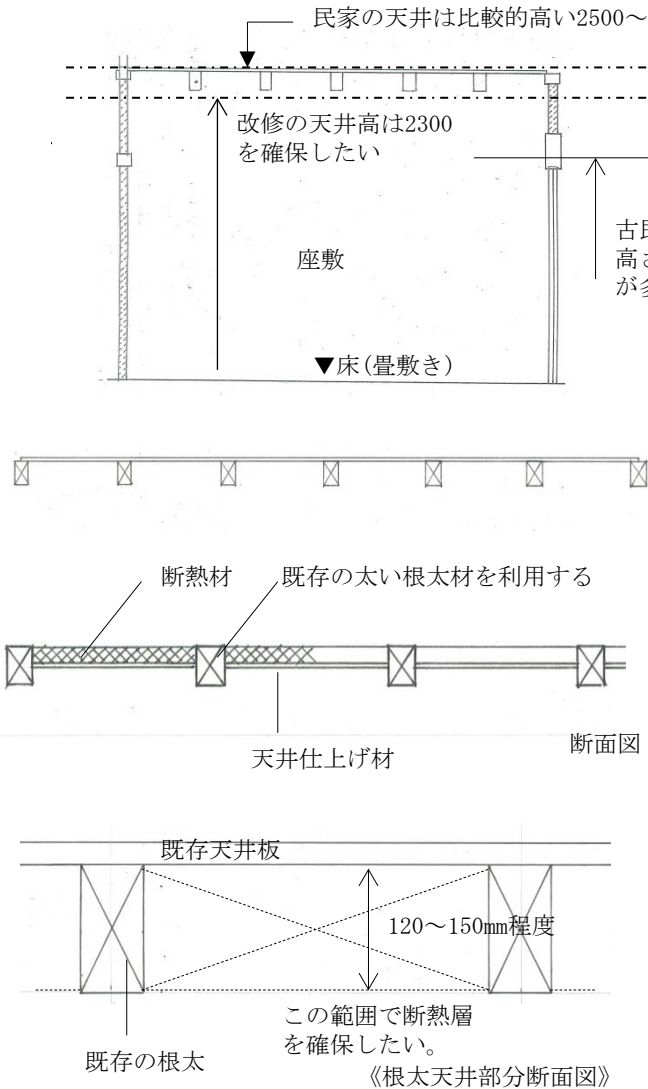


古民家の天井は部材の大きさや意匠は異なるが、根太天井か棹縁天井の大きく2つの形式に分けられると考えられる。この形式の違いはビーム構造と吊り構造の違いとなる。根太天井は梁間を太い材を渡し天井板をその上に据えるビーム構造であり、棹縁天井はそれ自体に強度がないため屋根裏の小屋組み材から吊手で支えられる仕組みとなる。

茅が屋根に残る場合、夏季は高い断熱性能を発揮するが、冬期は小屋裏への熱損失を防ぎたい。民家の天井造作に対応した手法で改修することが必要である。

A. 既存天井が根太天井の場合を想定

B. 既存天井が棹縁天井の場合を想定



● 棹縁天井の場合の断熱材の納め方例

